

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No. -（事務局用）	タイトル 「新しい日常」に対応した地域活動団体の「新しい活動方法」を検証したい。	自治体名 東京都多摩市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	誰一人取り残さない、「新しい日常」の実現に向けて ～リアルもオンラインも、多摩市若者会議が実現します！～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	多摩市若者会議			
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2		
メンバー数（公開）	14名			
代表者（公開）	高野 義裕			
メンバー（公開）	石原 瑠波 高橋 菜緒 西山 なつ美 加藤 利樹	神崎 智大 保坂 有真 池上 郁弥	榊 佑人 高木 康裕 小川 大介	村松 実花 西村 信哉 曾山 のぞみ

#### 【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

「新しい日常」に対応できない市民がいること

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで…>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

誰一人取り残さない、「新しい日常」の実現に向けて  
～リアルもオンラインも、多摩市若者会議が実現します！～

課題背景：

「(2)アイデアの理由」項で詳細に述べるが、新型コロナウイルス（以下「新型コロナ」という。）感染拡大の影響により、緊急事態宣言解除後も市民活動は今後の活動を模索しており、また、地域のイベントもほとんど中止になっている。

一方で多摩市は都内屈指の豊富な公園、日本一長い歩車分離型の遊歩道など魅力的な地域資源を有するなど、「密」にならないオープンスペースが豊富にあり、「新しい日常」の中でも市民生活を彩る環境が整っているものの、まだまだ市民に対する認知度は今一つである。

多摩市は、11月7日に中止となった学校文化祭や地域イベントをYouTube上で発表する場をつくるため、「みんなでつくる多摩市オンライン文化祭」を企画<sup>1</sup>したが、YouTubeを見たことがない、文化祭に投稿する動画を作成できない市民も存在している。

そうした中、地域資源を活用して「新しい日常」に対応するイベントを開催し、「新しい日常」に「誰一人取り残さない」地域づくりが求められている。

目的：

課題に対するアプローチは二つあり、①オンラインと連動した形の新しいイベントを、広い公園など、密にならない環境を活用して実施し、誰もが楽しみ、多摩市の魅力を感じてもらうこと、②市民活動のオンライン化支援を行うことで、「新しい日常」においても活動を継続、発展させることである。

方法：

では、「新しい日常」に「誰一人取り残さない」社会は、どのように実現するのか。

多摩市若者会議は、次の2つを提案する。

#### (1) 地域イベントのオンラインとリアルの融合

<実践例>

##### ① 市民アート展示イベントの実施

例年多摩市が実施している障がい者のアート展示「パラアート」が延期されたことをきっかけに多摩市の団地内にある諏訪・永山商店街と協力し、工芸作品や写真などを商店街、公園に展示する。まちじゅうでアートを展示することにより、多くの方に障がい者アートの魅力を感じてもらえるきっかけとなるだけでなく、イベントを中止していた諏訪・永山商店街の活性化にもつなげた。また市が主催したオンライン文化祭と同日に開催することで以下の②③の連動を行うリアルな場所とする。

##### ② まちクエスト謎解きラリーの実施

市民アート展示の会場である諏訪・永山商店街に市民を誘導するため、「まちクエスト」という位置情報を利用したスマートフォンアプリ<sup>2</sup>を活用して、多摩センター駅及び永山駅の主要駅から参加者各々が多摩市内のアートスポットを巡り永山商店街まで歩くイベントを開催した。

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

まちクエストは、芸術作品だけでなく、公園の遊具や多摩市の特徴的なトイレなど、日常にある市内のアートを発掘するという側面もあった。

#### ③ 街頭 YouTube(パブリックビューイング)

オンライン文化祭は YouTube で放映していたが、YouTube の存在自体を知らない、また、知っているでも視聴したことがない方がいることも事実である<sup>3</sup>。オンライン文化祭に「誰一人取り残さない」参画を目指すため、街頭 TV ならぬ街頭 YouTube を永山商店街と協力して設置した。

また、多摩市と協力し、街頭 YouTube の周辺の映像を生配信しただけでなく、永山商店街にある地域コミュニティ施設「福祉亭」の高齢者のカラオケ教室の取組みが 11/16(月)の NHK の「おはよう日本」に放映<sup>4</sup>され、コロナ禍において大きく制約を受けている「カラオケ」を屋外で実施し、高齢者の生きがいづくりにも貢献した。子どもたちも高齢者も一緒に楽しむ多世代の新しいコミュニケーションの場が生まれた。

#### ④ YouTube Live VR 配信

10 月に地元立地業者と私たち含む地域団体が協力し開催した「多摩ニュータウン ランタンフェスティバル 2020」会場に 360° カメラを設置し若者会議 YouTube チャンネルにて YouTubeLive VR リアルタイム配信を行った。あたかも会場に居るような VR 体験を実現したことで、喜びの声が寄せられた。また同イベントでは若者会議主催で instagram のハッシュタグを活用し、応募・展示がオンラインで完結するフォトコンテストを開催。5 歳からシニア世代までが約 700 枚の写真の応募があり、世代を超えた参加者の楽しみとオンラインでの交流の場を提供した。



島田療育センターの展示物は子供に大人気。パラアートの魅力に自然と触れる



自分たちが実演した和太鼓の放映に盛り上がる小学生。やっぱり友達と見たいよね



ちょうどオンライン文化祭の生配信中に浮かぶ虹。リアルならではの感動が。

### (2) 市民活動オンライン化支援

学生や社会人にとって、Zoom や Teams などのオンライン会議ツールは、学ぶうえで、あるいは働く上で欠かせないツールとなり、多摩市若者会議では「(2) アイデアの理由」で後述のとおり日々の活動でも取り入れ、ワークショップの運営などを蓄積していった。

そうした活動を知ったオンライン対応が進んでいない市民活動の担当者から声を掛けられ、彼らが企画するシンポジウムやワークショップのオンライン会議に技術協力している。

また、市民団体だけでなく、多摩市など自治体が企画するオンラインイベント、審議会等においてもオンライン化支援を行っている。

令和 2 年度は 1 2 月までに 9 回の市民団体のイベント、3 回の市役所のイベントを支援しており、多摩市内の市民活動に対して、「新しい日常」でも実施できる方式で活動をサポートすることにより「誰一人取り残さない」社会に向け取り組んでいる。

#### 新規性：

今回提案したパブリックアートやオンライン化支援は、すでに全国的に取り組みがあり、それ自体に新規性があるわけではない。一方で、今まで屋内で開催していた「パラアート」を屋外、それも商店街の前で実施することにより、パラアートに関心がなかった層にも広げるだけでなく、障がい者だけでなくアートイベントにより、「障害のある人も、ない人も誰もが参加し、楽しむ、インクルーシブなイベントへ昇華さえ、次年度以降のパラアートも今回の取組みが評価され、多摩市は同様の形式で実施する方向で検討を進めている。

#### 参考資料

1. 多摩市オンライン文化祭:<https://tamacity-online-bunkasai.com/program01.html>
2. まちクエスト:<https://machique.st/>
3. モバイル社会研究所:<https://www.moba-ken.jp/project/movie/>
4. おはよう日本:[https://www.nhk.or.jp/ohayou/digest/2020/11/1116\\_2.html](https://www.nhk.or.jp/ohayou/digest/2020/11/1116_2.html)

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

**このアイデアを提案する理由**について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

**<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>**

**<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>**

本アイデアを提案する理由とは

#### 1. 新型コロナウイルス感染拡大の影響

令和2年は、新型コロナウイルス（以下「新型コロナ」という。）拡大の影響により、公立学校の一斉休校や緊急事態宣言の発動による外出抑制など、これまで当たり前であった私たちの生活を大きく変えた年になった。

政府は、「新しい生活様式」を提言し、3密回避のため、買い物、娯楽・スポーツ等、公共交通機関の利用、食事、イベント等の参加など、日常生活の生活様式を提示し、企業はテレワークやオンライン会議を行うことが日常となっている。

6月以降、新型コロナの新規陽性者数が減少し、緊急事態宣言が明けた後も、人が集まるイベントはどこまで対策を講じるべきか、個々の判断にゆだねられ、やむを得ず中止する事例が相次いでいる。

例えば、多摩市の商店街が主催するお祭り、セール等の各種イベントは、9月まで全て中止又は延期になっている<sup>5</sup>。

また、関東地方におけるイベントの開催は、東京都内は回復傾向にあるものの、他の関東地方はイベント開催が戻っていない<sup>6</sup>。これは、東京都内のイベントが、オンライン開催に移行しているものが多いが、オンラインへの対応が東京都外ではスムーズに移行できていないことを示している。

このような状況の中、多摩市は、「新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言に係る市民活動団体アンケート調査」を実施した<sup>7</sup>。

緊急事態宣言化で「オンライン化」に対応した市民団体は、約30%にとどまっており、「オンライン活用なんて高齢者には無理。解消後に誰かが体調狂わせてないか心配」という意見も見られた。

また、コロナ後、活動に変化があると回答した団体は、約75%にのぼっており、自由回答では、活動の継続が困難になることが危惧されるものもある。

参考資料：

5. 令和2年度 商店街イベント一覧：<http://www.city.tama.lg.jp/0000006604.html>

6. V-RESAS イベント編：<https://v-resas.go.jp/prefectures/13#events>

7. 新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言に係る市民活動団体アンケート調査。<http://www.city.tama.lg.jp/0000011509.html>

#### 2. 市民活動団体は多摩市の財産

1971年に入居開始した多摩ニュータウンが市域の半分以上を占める多摩市は、地域コミュニティも存在しない新しい街に移り住んだ居住者によって作られた活発な地域活動に支えられていると言える。多摩市の人口10万人あたりNPO法人数は58.2法人(H25年度)を誇り、都内26市で2位、都道府県別2位の山梨県の58.4法人とほぼ同等である(都道府県別1位は多摩市の立地する東京都)。多摩ニュータウン地域の団地商店街では生鮮食料品を扱う店が減少した一方で、NPO法人の運営する福祉系の事業所が増加している。

## 3. 多摩市若者会議の動き

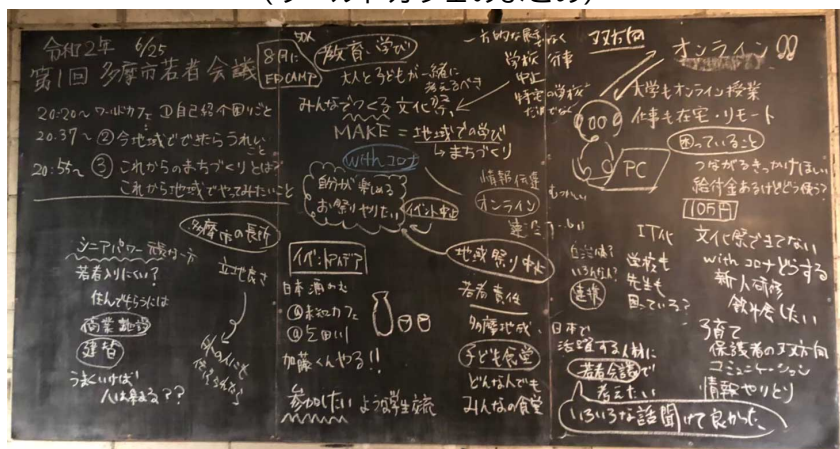
多摩市若者会議も、他の団体と同様、活動の拠点である未知カフェの営業を3月10日から休止し、リアルイベントを自粛している。

4月は大学生入学の時期であり、新規メンバー募集活動に支障が生じたことから、4月27日から5月10日までコアメンバーが中心となり、「オンライン未知カフェ」を開催した<sup>8</sup>。また、6月25日に開催された第1回多摩市若者会議ワークショップもオンラインで開催<sup>9</sup>し、「①今困っていること」「②今地域でできたらうれしいこと」「③これからのまちづくりとは？これから地域でやってみたいこと」についてワールドカフェでアイデアを深めた。

その中で、学校の文化祭や様々な活動が中止になっていることから、オンライン文化祭をみんなで創ることがアイデアとして出され、多摩市の広い公園を活用したパブリックアートを実施することなどが具体化された。

なお、こうした「オンライン未知カフェ」やワークショップは、日ごろから市民活動に参加している方々、多摩市若者会議が設置したまちづくり交流拠点未知カフェの常連客も参加され、多摩市若者会議のオンラインワークショップの運営が評価されるという副次的な効果があった。

（ワールドカフェのまとめ）



多摩市若者会議の活動は市内でもいち早くオンライン化できていたこともあり、5月頃よりオンライン化の支援を依頼されるようになった。オンライン運営そのもののサポートの依頼から運営方法の相談、機材の貸与、オンライン配信拠点としての未知カフェの提供など支援の依頼内容は様々である。これらは自らオンライン化を希望し、オンライン化しきれなかった団体からの声であるが、市内に潜在的なニーズが残っているものと推測される。

参考資料：

8. オンライン未知カフェ：<https://michicafe.jp/online> michicafe start/

9. 令和2年度第1回多摩市若者会議活動報告：[https://tamayouth.jp/report\\_workshop2020-01/](https://tamayouth.jp/report_workshop2020-01/)

## 2. アイデアの説明（公開）

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます>

#### (1) 地域イベントのオンラインとリアルとの融合

同時開催した市民アート展示イベントとまちクエスト謎解きラリー実現までの流れの通り。

#### 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

資源	大まかな規模とその現実的な調達方法
ヒト	多摩市若者会議コアメンバーを中心とした実施部隊（約 10 名） 展示団体を取りまとめ、オンライン文化祭の企画調整をする多摩市職員（企画課、障害福祉課）
モノ	市民アート展示イベント：多摩市の公園、商店街、展示用の消耗品 まちクエスト：まちクエストのアプリ、多摩市内のアート 街頭 YouTube：多摩市若者会議及びコアメンバーが所有する PC、モニター、スピーカー、マイク
カネ	市民アート展示イベント：展示用消耗品購入費¥5,000 程度 まちクエスト：イベント利用・サポート料¥40,000 街頭 YouTube：インターネット通信費(テザリング) ¥ 1,500 程度

#### 実現にいたる時間軸を含むプロセス

年月	プロセス
<b>2020 年</b>	
6 月	多摩市若者会議にてパブリックアートのアイデアが出る。
8 月	発起人数名で実現可能性を検討。 パブリックアートの会場を諏訪・永山商店街に決定。両商店街の商店会 パブリックアートに人を呼び込む手段の検討。
9 月	障がい者団体への展示団体のとりまとめ。他の展示者を募集。 諏訪・永山商店街に会場利用の申請・許可。 まちクエストを同時に実施することを決定。
10 月	具体的な展示場所の決定。FB による広報。 まちクエスト社との打ち合わせ まちクエストのコース選定。 オンライン文化祭を永山商店街で放映することを決定。
11 月 7 日	イベントの実施
12 月	令和 3 年度パブリックアート実施に向けた多摩市との協議
<b>2021 年（予定）</b>	
11 月か 12 月	令和 3 年度パブリックアートの実施。

**（2）市民活動オンライン化支援**

オンライン化のノウハウはメンバーが大学のゼミや所属企業で工夫した結果、IT エンジニアメンバーの知見など、多くの若者会議メンバーの持ち寄りで支えられている。また、支援回数が増えることでオンライン運営の現地経験の機会が増えている。設備面では営業回数の減少したまちづくり交流拠点「未知カフェ」の設備を活用しており、配信スタジオとして機能する「場」の存在も大きい。

**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**

資源	大まかな規模とその現実的な調達方法
ヒト	多摩市若者会議コアメンバーを中心とした実施部隊（約 10 名）
モノ	未知カフェ備品・インターネット回線、多摩市若者会議コアメンバー所有の機器を活用
カネ	新たな出費は無いが、休業中の未知カフェの固定費用が発生、有償対応の収益を未知カフェ運営費に補填

**実現にいたる時間軸を含むプロセス**

年月	プロセス
<b>2020 年</b>	
3 月	まちづくり交流拠点「未知カフェ」臨時休業
4 月	「オンライン未知カフェ」スタート
5 月	オンライン未知カフェがきっかけとなり、市内ボランティア団体の総会のオンライン開催を支援（支援初事例）
6 月	多摩市若者会議オンラインワークショップ初開催、未知カフェの配信スタジオ活用開始
8 月	市内市民団体のオンライン講演会を未知カフェから配信（講演会 1 例目） 市外一般社団法人のオンライン講演会を未知カフェから配信（有償対応 1 例目）
11 月	多摩市主催オンラインワークショップを未知カフェから配信、ファシリテーションも多摩市若者会議メンバーが担当する（市役所イベント支援 1 例目）
12 月	多摩市審議会のリアル・オンラインハイブリッド開催のオンライン化を支援（審議会 1 例目）
<b>2021 年</b>	
1 月	全国規模の若者まちづくりイベントのオンライン化を支援予定

**<今後の施策について>**

多摩市若者会議メンバーが出資し、若者会議メンバーの議決で意思決定している「合同会社 MichiLab」が多摩市が進めている「地域委員会構想」のモデルエリア（諏訪中学校学区）の中間支援組織に指定された（2020 年 7 月）。

既にモデルエリア内の地域の会合への若者会議メンバーの参加、自治会・商店会などとの会話が始まっており、モデルエリア内の地域福祉推進委員会が発行する誌面『ささえ愛』と合同会社 MichiLab が制作する動画・ウェブサイトを連動させる取り組みを実施する予定で準備を進めている。